

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成22年1月19日

【評価実施概要】

事業所番号	4071602322
法人名	有限会社 エルダリースタッフ
事業所名	グループホーム 虹の里
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市高良内町172-1 (電話) 0942-45-5177
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年12月10日

【情報提供票より】(平成21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	18 人
利用定員数計	18 人
常勤	9人, 非常勤 9人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築 改築
建物構造	木造	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要(平成21年10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.9 歳	最低	59 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	渡辺内科医院、佐々木外科医院、毛利歯科医院、(株)D.T.B.(訪問歯科)
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

左右対称のしゃれたホーム建物は閑静な住宅街の一角に位置している。地域の一員としてのホームを目指した理念を創りたいとの職員全員の熱い想いでワークショップを行い、「その人らしく生き活きと地域の中で支え合うゆったり楽しい虹の里」という理念を作成している。理念を日常の生活に具現化するよう、職員は一丸となって楽しいホーム作りに取り組んでいる。ホームに隣接する広い畑は四季を通じて花や野菜の植え付けから水やり、収穫まで利用者と共に汗を流し、成長を楽しむ場所になっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「玄関の鍵を掛けないケアの実践、災害訓練への地域住民の参加、トイレの開けたまま固定されたドアと個室のカーテン仕様、プライバシーへの配慮」が前回評価の改善課題にあげられていた。プライバシーへの配慮は改善がなされていたがその他は改善取り組み半ばである。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己・外部評価の意義は理解されている。今回の自己評価は職員全員で分担して作業を行い、管理者がまとめている。調査訪問直前に管理者が交代したため取りまとめた管理者から話を聞くことはかなわなかった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	町内会長、町内分館長、民生委員、老人クラブ会長、市担当職員或いは包括支援センター職員、家族代表等の参加を得て、2ヶ月に1回、地域の公民館で開催している。ホームの日常や取り組みを報告し、地域の行事や情報、福祉関連の情報を得る他、様々な角度から意見交換を行っている。出された意見は職員全員で話し合い、サービス向上に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	職員は利用者を個別に担当している。家族からの意見や苦情等は職員が話しやすい環境作りに務め、出された意見や苦情等は職員間で共有しホーム運営に活かしている。家族から「より良いホーム作りに協力したい」と家族会の設置希望が出されている。これを良い機会ととらえ、ぜひ家族会を結成してサービスの向上に活かしていただきたい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域子供みこしのホームへの立ち寄りや夏祭りの参加、自治会の不燃物、ごみかごの管理等を行っている。ホームに隣接する広い畑には四季折々の花や野菜を育てているが、利用者の高齢化・重度化が進んでいるため手が行き届かない状態になっている。自治会や運営推進会議、家族等に広くボランティアを呼びかけ、交流の輪を広げる一助につなげて欲しい。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム設立時の理念に加え、地域密着型サービス事業所として「その人らしく生き活きと地域の中で支え合うゆったり楽しい虹の里」を全職員で話し合って作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に職員で唱和している。日常の業務の中で、忙しいときはついバタバタと走り出すことがあるが、理念を思い出し行動を改め、理念に沿うように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域夏祭りの子供みこしがホームに立ち寄り利用者と交流している。また、ホームは町内会に加入し、自治会の不燃物、可燃ごみ等の管理を行っている。	○	ホームのうしろには隣接して広い畑がある。職員と利用者で四季折々の野菜や花を育てているが利用者の高齢化・重度化が進んでいるため、手が行き届かない状態になっている。運営推進会議や地域、家族にボランティアを広く呼びかけ、参加したボランティアと交流を深める第一歩にしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己及び外部評価の意義は理解している。今回の自己評価は職員が分担して行い管理者がまとめている。まとめた管理者は調査訪問直前に交代したため話を聞くことは出来なかった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、町内分館長、民生委員、老人クラブ会長、市担当職員或いは包括支援センター職員、家族代表等の参加を得て、2ヶ月に1回、地域の公民館で開催している。ホームの日常や取り組みを報告し、地域の行事や情報、福祉関連の情報を得る他、様々な角度から意見交換を行っている。出された意見は職員全員で話し合い、サービス向上に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者は「GH頑張らんね」と気に掛けている。担当者とは日常的にメールのやり取りを行い、必要などときには出かけて連携を取っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は行政機関等の研修会に参加し、勉強会を行っている。研修会や講演会には出来るだけ参加するように職員に奨励している。研修会に参加する場合は勤務ローテーションの中に繰り入れ、参加しやすいようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの生活状況の写真を多用したホーム便りを、毎月家族に送付している。新規採用の職員についてもホーム便りで紹介している。今年のクリスマス会には家族が演芸の出し物を予定しており、利用者は楽しみにしているが、家族が希望している家族会の結成には至っていない。	○	「家族はホームのお手伝いをしたいがどうしていいのかわからない家族会を作って欲しい、作りたい」との希望が家族から出ている。ぜひ家族会を結成し、家族の協力を得てより良いホーム作りに取り組んでいただきたい。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に「意見苦情箱」を設置しているが利用された事はない。職員は利用者の担当を決めており、遠慮なく話し合える環境を作る事に努めている。よもやま話の中で本音がでてくることもあるし、面会が終わって送りに出た玄関で1時間も話し込んだこともある。出てきた意見は職員で共有し、サービスに活かしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動があった場合は、先輩職員と日勤・夜勤勤務を同時に行うように勤務ローテーションを組み、利用者にダメージを与えないように、新しい職員には早く職場に馴染んでもらえるように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に当っては性別や年齢等を理由に採用対象から排除する事はない。採用時の面接では「笑顔と仕事を楽しめる明るい人柄であるか」を重視しており、異業種からの転職希望者を積極的に採用している。職員は大正琴、カラオケ、リコーダー等の特技を活かして生き生きと勤務している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者や職員は、市や外部団体が開催する研修会に参加し、参加した場合はは内部で伝達研修を行い資料を配布したり、会議で報告するなど啓発活動に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修を受ける事を積極的に勧めている。介護福祉士やケアマネジャー等の資格受験に取り組んでいる職員については、希望があれば勤務ローテーションを考慮し、希望に添えるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、市内の事業者協議会に参加し、グループホーム部会の同業者とレクリエーションや意見交換等を通じてサービスの向上につなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に事前にホームの見学を勧めている。職員、利用者と一緒にお茶を飲んだり、談話し顔合わせを行い、ホームの雰囲気を知ってもらい、安心して入居できるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームに隣接する畑に、季節の花や野菜の植え付けから水遣り、草取り、収穫までの一連の作業過程を職員は利用者から学び、共に汗を流したり、笑いあったりして過している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時に、本人や家族から希望、意向の聞き取りを行っている。困難な場合は日々の暮らしの中で本人が好きなことを聞き取ったり、家族から好きだったことや楽しみだったことなどの生活歴を聞き把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時や面会時等に本人・家族の希望を確認、かかりつけ医の往診の時に医療面での意見を求め、担当職員が介護計画を立案し介護支援専門員が確認している。個々の介護計画は申し送り等で全職員に周知、徹底が出来ている。本人・家族の同意を得ている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングや3ヶ月毎の評価を行い実施状況を確認し、継続的な介護計画の見直しが行なわれている。本人・家族の要望、状態に変化が生じた場合には、その都度見直しを行い新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が遠方にいる方や仕事のため受診同行できない場合は、受診の支援を行なっている。家族が宿泊を希望される場合は、寝具を準備し利用者の居室で泊まっていたりしている。契約している訪問看護ステーションがあり医療連携体制をとっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の要望に応じて、それぞれのかかりつけ医がある。協力医療機関から週1回の往診がある。協力医とは、24時間連携が取れている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでに3名の看取りを行なっている。ターミナルに向けて、家族、主治医、職員と話し合い同意書を取り交わしている。終末期ケアマニュアルがあり、勉強会など重ね事業所全体として体制を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常生活の中では利用者にやさしい声で接し、トイレへの誘導や失禁の際も、耳元で呼びかけるなどの配慮がなされている。又、記録物は事務所に置き記録、管理して個人情報の保護に努めている。入職時に個人情報の取り扱いについて契約書を取り交わしている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れはあるが、本人のペースや状態に合わせて対応している。散歩、買い物など一人ひとりの希望に沿ったケアを行っている。職員は、利用者が笑顔で過ごしてもらえるよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳・下膳、テーブル拭きなど利用者の力を活かしながら職員と一緒に進められている。職員は、介助が必要な方の隣に座り必要な介助を行う。職員も同じテーブルで同じ食事を食べることで入居者との会話も弾んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おき週3回の入浴支援を行っている。毎日入浴を希望される方や、拒否される方もあり、その都度希望や心身の状態に応じて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字の得意な方にホームの理念を書いてもらっている。畑仕事の指示や草取り、おしぼりまき・洗濯物をたたむなど、利用者の状況に合わせた役割の支援を行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節ごとの花見や買い物、天気の良い日は本人の希望に応じて散歩に出かけたり、中庭のテーブルでお茶を飲むこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の自動ドアは利用者の安全確保の為に、ボタンで開閉し出入の際はチャイムが鳴るよう整備している。職員は利用者が外出しそうな様子を察知したら一緒に戸外へ出るなどの支援をしている。	○	ボタンの管理は職員が行っており、日常的に入居者が自由に出入りできる状態ではなく閉塞的である。玄関を開放した上で、利用者の安全管理に努められるような取り組みを期待したい。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。年に1回は消防署の協力を得た訓練である。利用者と家族が安心して生活できるよう地域の方への協力依頼はされているが実際には参加できていない。	○	地域向けの回覧板や運営推進会議等を利用し、地域と合同での避難訓練の実現に向け取り組んでいただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チルド食を利用しており、契約業者の管理栄養士の管理で1日1200カロリーの食事が提供されている。食事チェック表があり摂取量や水分チェックが行なわれている。粥食やキザミ食・片麻痺の方にはおにぎりで提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、車椅子の方でもスムーズに出入りが出来るようにスロープが設置され、庭の片隅にテーブルセットがある。食堂兼デイルームには、ソファーや畳のコナーがあり利用者が思い思いにくつろげる空間となっている。車いす利用者が一人でトイレに行きやすいように、入り口のドアを開けた状態で固定しているため、外からトイレ内部が丸見えになっている。	○	車いす利用者が職員の支援を受けずに、安全に安心して利用できるようにトイレ入り口の検討に期待したい。外部からの視線をさえぎり、車いすを利用している人が一人で出入りできるように、巾と長さを工夫した暖簾なども1つの方法である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室のベッドはレンタルであるがそれ以外の必要物品は、すべて本人・家族が持ち込まれた物である。テレビ、冷蔵庫があり冷蔵庫の中にはお酒が冷やされ、夕食時の晩酌を楽しみにしている利用者もいる。家族の結婚式の写真が飾られ、個性的な居室となっている。</p>		